

平成 30 年 12 月 20 日

12 月の木材価格・需給動向

1. 国産材(北関東)

栃木県では晴天が続き、山の作業は順調だが、間伐材中心で皆伐に比べ量が増えない。12 月に入っても県森連 3 共販所の土場にまだ余裕があるのは珍しい光景である。県内製材工場では原木の不足感が全く解消されておらず、どの工場も在庫どころか 1 週間の予定も立たないほど材の手当に苦戦している。スギ、ヒノキ材とも高値水準が続いている。製材工場の集荷意欲が依然旺盛なため、価格は高値安定を維持すると見られる。

群馬県では原木の出材が相変わらず低調で集荷しにくい。特にバタ角用(4.0 m、9~13cm)が少ない。スギ、ヒノキ、カラマツともに値上がりが続いている。近県の製品市場から羽柄材の引き合いが増え、またプレカット工場からも年内納入の物件が入っており、多忙で残業で対応している。在庫は羽柄材、構造材など全体的に品薄である。原木価格の上昇をようやく製品に転嫁でき始めたが、製材の収益率は悪化している。

2. 米材

米加産地ともに出材は順調。米国内の港頭在庫は潤沢な水準を維持、一方カナダ側は順調な出材ながら 9 月に払底した在庫の積み上げ中である。ウェアハウザー社の 12 月積み対日価格(推定)は前月比で IS 級は\$50 ダウンの\$870、SLC 級は\$50 ダウンと 4 カ月連続の大幅な価格修正となった。米加間で在庫環境に隔たりがあり、カナダ側の価格下落のスピードは緩い。米国製材品価格の大幅な値下がり産地製材工場は減産を開始し、原木購入量の減少による産地価格の下落に伴い、輸出価格も下落した。米国製材品価格は今年 6 月に史上最高値を付けた後反落したが、11 月に漸く底を打った。ランダムレンジス紙発表の 15 種平均価格(11/30)は\$346/M で 11 月頭に比べ 4.2%の UP。現地価格は底値を脱し上昇傾向にあるが、引き続き安値であることに変わりはなく、第 1・四半期の対日価格は大幅な下落が予想される。

10 月の原木入荷量は 247 千 m^3 、1~10 月累計で 2,220 千 m^3 (前年同期比 0.4%増)、出荷量は 245 千 m^3 、1~10 月累計で 2,197 千 m^3 (同 2.7%減)、在庫は 221 千 m^3 で在庫率は 0.99 ヲ月と 1 ヲ月割れとなった。国内の米材製材工場の出荷は順調ながら価格は横ばいで、採算的には苦しい環境にある。10 月の東京木

材埠頭の入荷は23千 m^3 (前月比20.4%減)、出荷は26千 m^3 (前月比ほぼ同等)、在庫は53千 m^3 (同4.8%増)。

3. 南洋材

サバ州では州政府が禁輸解除を口頭でアナウンス、連邦政府の承認待ちとのこと。2019年中頃より輸出再開の噂がある。サラワク州は2019年より輸出枠を10%に削減する予定であったが、20%を継続する意向である。PNGでは生産が比較的良好で対日向けの集材も順調。中国向けFOB価格は弱いが、日本向けは高値安定。11月予想の原木入荷は15千 m^3 、出荷も15千 m^3 、在庫は22千 m^3 、製材品の入荷は35千 m^3 。フリー板の市況が非常に悪い。価格は日本側の要求までは下げる余地はなく、生産調整に入る模様である。

4. 北洋材

産地アカマツ製材工場には、ようやく冬伐り原木が入荷し始めたが、生産量自体はそれほど上がっていない。アムール川沿いのカラマツ原木の対日輸出は終了し、内陸からの出荷のみ。現地挽き完成品は原木入荷の遅れで生産量は上がり、産地価格は\$510レベルで硬直化の状況。対日オファー数量は少ない。現地挽き原板は冬伐り原木の入荷に伴い、新規オファーが散見されるようになり、\$400弱のレベル。国内挽き製品は原板コストが下がらず、現地挽き製品よりもさらに採算が厳しい。中国-米国の関税問題で中国向けが低調で、各社とも30×40、原板の低級グレード処理に苦慮している。12月予想の原木入荷、出荷とも7千 m^3 、在庫は21千 m^3 。製品入荷(東京+川崎)17千 m^3 、出荷19千 m^3 、在庫37千 m^3 。

5. 合板

国産材原木は強含みに変化はない。とくに東北カラマツの引き合いは強く、原木の取り合いになっている。ロシア材は出材が少なく価格も強含みのまま。米材は若干価格の弱い物もあるが、長尺で使用される米マツは横ばい。南洋材は依然強気姿勢であるが、多少の価格調整程度の対応となっている。

10月の国内合板生産量27.5万 m^3 のうち針葉樹合板は26.4万 m^3 、出荷量は28万 m^3 と過去最高。在庫量は18.3万 m^3 と今年に入って初めて減少した。このうち構造用合板は15.7万 m^3 。針葉樹合板は10、11月と活発な荷動きとなり、納期遅れが出始めている。価格も極端な安値が無くなり、引き締まり、潮目が変わってきた。10月合板輸入量は27.6万 m^3 と今年一番の入荷となった。特にマレーシアからが11万 m^3 と大幅な入荷となった。9月の輸入量が少なかったため、ならずと平均的な水準である。輸入合板は在庫アイテムに偏りがあり、依然生コンパネの品不足が顕著である。産地マレーシアでは原木在庫が1

ヵ月あり、年内は問題なく稼働できる見込み。インドネシアも雨季に入っているが、原木の搬出に影響するほどではない。針葉樹合板の販売価格は、このまま好調な出荷が続けば、安値はなくなり、メーカー出値に戻っていくだろう。輸入合板は先行きの入港が読めず、品薄のアイテムが増えてくる可能性があるだろう。価格も強気で推移すると見られる。

6. 構造用集成材

ラミナの入港は順調で各メーカーともラミナ在庫は多いが、一部ではWW柱ラミナを中心に在庫が減ってきている。12月から第1・四半期のラミナ交渉が始まるが、価格は下げが予測される。12月に入り、プレカット工場はフル稼働に近く、集成材の荷動きも多少良くなっている。国内メーカーにこれ以上の値下げ余地はないが、12月から年明けにかけて値下げに踏み切るメーカーもある。WW柱、間柱は秋の入港が少なかったため品薄感が強い。RW梁も少なかったが、国内メーカーの在庫調整により品薄感はWWほどではない。

7. 木材チップ

チップ原木の入荷は例年並みだが、バイオマス発電への引き合いが強い。解体材は枝条等の災害木の入荷量は落ち着いてきたが、全体的には多い状態。製紙用の国内針葉樹チップの使用量は増加傾向にあり、各社は増集荷に向かっている。燃料用チップの大幅な余剰感はやや沈静化したが、依然として影響が残っている。国内チップ工場では製紙用原料は工場毎に増減のバラツキが多い。燃料用は依然として余剰感が強い。

8. 市売問屋

チップ原木の入荷は例年並みだが、バイオマス発電への引き合いが強い。解体材は枝条等の災害木の入荷量は落ち着いてきたが、全体的には多い状態。製紙用の国内針葉樹チップの使用量は増加傾向にあり、各社は増集荷に向かっている。燃料用チップの大幅な余剰感はやや沈静化したが、依然として影響が残っている。国内チップ工場では製紙用原料は工場毎に増減のバラツキが多い。燃料用は依然として余剰感が強い。

9. 小売

例年に比べ勢いはないものの、少し回復感が出てきた。小口ではあるが配送件数も増加。スギの貫、胴縁、90角は入荷後直ちに引き合いがある。価格は保合い。ヒノキは安定しており価格は保合い。外材は特定サイズに品薄感が強く、全体的に強含みで推移。合板は需要期に入ったが、停滞感がある。輸入合板は現地の状況から今後動きが出る可能性があり、価格は強含み。床板フロアは夏頃に比べ一服感があり保合い。

1. 主要外材入出荷在庫量

		入荷量	出荷量	在庫量
米材	丸太	→	→	→
	製材品	→	→	→
北洋材	丸太	→	→	→
南洋材	丸太	↘	→	↘
	製材品	→		

矢印の表示は今月に対する翌月の動向を、下記のように示したものである。

- ↑ 急増・急上昇
- ↗ 増加・上昇
- 横ばい
- ↘ 減少・低下
- ↓ 急減・急落

2. 合板供給量

国内製造量	輸入量		
	計	インドネシア	マレーシア
→	→	→	→

3. 価格動向

樹材種	形状	取引条件	樹種・寸法等	動向
国産材	丸太	卸売価格 (北関東、県内産 市場土場渡し)	スギ柱材 (3m) 2等	→
			スギ中丸太 (3.65m) 2等	→
			ヒノキ柱材 (3m) 2等	→
			ヒノキ中丸太 (4m) 2等	→
	製材品 (関東近県産 板は東北産)	首都圏・市売り 価格	スギ柱角 (KD) 10.5×10.5×3m 特等	→
			スギ柱角 (KD) 12.0×12.0×3m 特等	→
			スギ間柱 (KD) 10.5×3.0×3m 特等	→
			スギ加工板 1.3×18.0×3.65m 特等	→
			スギタルキ 3.0×4.0×3.65m	→
			ヒノキ柱角 (KD) 10.5×10.5×3m 特等	→
ヒノキ柱角 (KD) 12.0×12.0×3m 特等	→			
ヒノキ土台角 12.0×12.0×4m 特等	→			
米材	丸太	産地価格	米マツ ISタイプ	↘
		国内卸売価格 (京浜・オントラ)	米マツ ISタイプ コースト	→
	製材品 (カナダ産・ 現地挽き) (国内挽き)	東京・問屋店頭 渡し価格	米ツガ桁角 (KD) Std&Btr S4S 10.5×10.5×4m	→
			米マツ桁角 (GR) Std&Btr S4S 4・1/8" 13'	→
			米ヒバ土台角 (GR) Std&Btr 4・13/16" 13'	↘
米マツ平角 (KD) 特等 10.5×24.0×4m	↘			
南洋材	丸太	産地価格	メランティレギュラー	↗
		東京・水面筏 渡し価格	メランティレギュラー 60cm上、4m上 製材用	→
	製材品	産地価格	メランティレギュラー 60cm上、4m上 合板用	→
		東京・問屋店頭 渡し価格	ホワイトセラヤ 平割 (サバ州産) 同上2.4cm×込み×4m 定尺1等	↗ →
北洋材	製材品	国内卸売価格 (京浜・オントラ)	アカマツ (KD) 30×40上級	↗
		アカマツ (KD) 16×40上級	→	
欧州材	製材品 (現地挽き)	東京・問屋店頭 渡し価格	ホワイトウッド 間柱 2.7×10.5×3m S4S FOHC	↗
集成材	国産	東京・問屋店頭 渡し価格	ホワイトウッド 無化粧 JAS 5プライ	→
			スギ 無化粧 JAS 5プライ	→
	欧州産	//	10.5×10.5×2.98m	→
合板	国産	東京・問屋店頭 渡し価格	タイプ2 F☆☆☆☆ 2.3mm厚 3×6	→
			タイプ2 F☆☆☆☆ 4.0mm厚 3×6	→
			型枠 12.0mm厚 3×6	↗
			針葉樹構造用 12.0mm 3×6 F☆☆☆☆	→